

「銅版画東都名所図（二十五図）」（重要文化財）

（ どうはんがとうとめいしょず（にじゅうごず） ）



銅版画東都名所図のうち「両国勝景」

作者	亜欧堂 田善
年代	文化元～文化六年（1804-09）頃
材質形状	紙本銅版・法帖
大きさ(cm)	12.9×18.1（1枚）
指定	重要文化財

亜欧堂田善（寛延元年～文政五年-1748～1822・須賀川生）は江戸時代後期に洋風画家として活躍した人物です。

白河藩主・松平定信が、西洋画法である腐食銅版画を独自に育成する技術者として画の道に入り、日本初の官製世界地図「新訂万国全図」の制作を成し遂げその期待に応えました。同時に、西洋の技法で描いた緻密な江戸名所風景は造形や構成に芸術家としての技量がうかがえ、同時代の画人たちにも影響を与えています。

田善の銅版画のなかでも江戸名所図は制作数も多く、江戸の風物を描いた本作「銅版画東都名所図（二十五図）」は、最も著名な作品群で完成された立体表現・遠近法・線描が駆使され、どの作品も魅力的です。これらにはほぼ同じ構図の異版も確認でき、繰り返し印刷し、版を新たに作り直していた可能性が考えられます。また、十一図の原版が現存し、そのうち九図が須賀川市に伝存しています。制作過程の一端にふれられる原版の存在はその稀少性はもちろん、判然としない田善の画業や作品比定においてもその果たす役割は大きいといえます。

・刊行物

「須賀川のたからもの - 須賀川市立博物館名品集 - 」 2019.3 45P

「須賀川の亜欧堂田善 - 江戸時代の銅版画と油彩画 - 」 2020.3 48P